
第2の世界 ~ The Second World ~

水無月 鷹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第2の世界〜The Second World〜

【Nコード】

N6294W

【作者名】

水無月 鷹

【あらすじ】

急成長した企業とその『商品』があった。

名称はそのまま

(株)バーチャルリアリティ『第2の世界〜The Second World〜』

もともと対人対モンスター混合VRMMORPGのゲームプログラムだったものだが、何時の間にか本当に第2の世界になりつつあるといわけである

それが本当に第2になる少し前の本当にVRMMORPGだった頃

く なった後のお話

VRMMORPGだから運営のせいにしてなんでもありwなんていう展開になると思われなくも無い。

(処女作&勢いで書いたものですのでgggdになる可能性が高いので注意して下さい

主人公がセコイ+チートかもしれない

誤字脱字の指摘があればバシバシ直しますので、躊躇せず指摘して下さい)

これはものすごくよく似た地球じゃないところ又はパラレルワールドです。

あくまでもフィクションです

#1 始まりの始まり（前書き）

な書き忘れましたが2011年ごろの話です

#1 始まりの始まり

俺、秋葉月あきはつき 慶けい一人称はもちろん「俺」だ。

プロフィールは

年齢：28

身長：168

体重：60

顔立ち：所謂純日本人かつ顔の良さ（イケメンさ）は自他ともに認める中の中

職業：魔法剣士

こんな感じ

職業について多大なるツツコミが予想されるので弁明すると、

俺は（株）バーチャルリアリティ『第2の世界』管理部 部長職

である。具体的に言くと『第2の世界』で一番偉い人。偉いよ？俺。なんせ地球の全人口のおよそ1/3はやっている（と言われている）のだからね

今や63億人ぐらい入るからね

なんでこうなつたかつて？

それは6年前に遡ることになる

2005年秋〜秋葉月22歳大学4年〜

卒業論文をとつと終わらせた俺。

偉い！頑張つたつて。

これで近日公開VRMMORPG『Second World』第2の世界』に間に合う〜

いやあ、フルフェイスヘルメット型特殊VR装置「VRExper

「i n c e」通称VRXを開発しVRシステムを大きく向上させた開発元（株）バーチャルリアリティから出るVRMMORPGだっというんだからネットゲーマーはもちろんのこと世界中から注目されているのは当たり前だよな？

「VR Experience」通称VRXとは今まで視覚、聴覚だけだったゴーグル型より少し大きいフルフェイスヘルメット型であたかもそこにいる様な感覚になる。どちらかと言うとシミュレータードリァリテイの考え方に近いものである。これは従来の目に見せるのでは無く脳神経に外部から微弱電力で作用させているらしい（人体には無害なのが実証済み）

尚セットで「Reality Recognition Camera」というカメラが捉えた画像をゲームのAvatarパラメーター（容姿）にしてくれる（かなり正確）もの。現代のカメラのついている顔認識技術の発展系。背景なんかも大体できる。

最新パッチで筋肉の盛り具合なんかもVRXとセットで認識できる。（開発部より）Avatarはこれでキャラを作る

説明長え

それはともかく
閑話休題

んでもって秋の終わり11月ごろだったかな？ テスト版参加者募集に応募して見事 テスト版プレイ開始！
それが物語の始まりであった

#1 始まりの始まり（後書き）

だから勢いと（ryで始めたつてば

勢いと（ryだから適当なところで力尽きたw

次回はこの先 テスト版プレイからですう

真面目にやりますよ次回は

#2 テストく神shingetu降臨まで(前書き)

昨日のとーつにまとめようと思ってはいたんですが何となく2つに分けました

#2 テストく神shingetu降臨まで

2005年11月初めく秋葉月22歳く

ようやく始まった テスト。

あくまでもテストなのでLvは25Lvまで（製品は100Lvまで）

2ヶ月の期間限定だから大晦日ごろには テスト終了。

テストのキャラは通貨と装備品・アイテムの一部が引き継げることになっている。

その代わりテストでは強力なものが出ないので苦労するけど。。。それまでに25Lvまであげてアイテムを大量に確保しなくては！

2005年12月28日く秋葉月22歳く

告知通り テスト終了

こっそり引き継げないLvやLvの高いアイテムを自分のパソコンの中にデータとしてかくしておいたぜw

8

2006年3月初めく秋葉月22歳く

『第2の世界』一般公開開始

ここで テストで使っていたIDとパスワードでログイン

おおお！きれいさっぱり高Lv装備・アイテムが消えている！

このキャラクターにパソコンの中に入れておいた テストの最終セーブデータを上書き

このゲームかなりセキュリティが厳しくて上書きするのに苦労したよそしてみんなLv1の中1人だけLv25からのスタートを切ったこのままだと運営にばれると思って変わり身にキャラを1体作るというところまで気が回っている俺

とりあえずクランやサークルグループなどには属さず一人で体モン
スターで狩り開始

職業は#1で書いたように魔法剣士

さて『第2の世界』本編を楽しむとするか

余談ではあるがこの『Second World』第2の世界』
ずいぶんと最初から拡張性が高い
名前負けしてないなと思ってみたりする

まず最初にサーバーがかなりの数用意しておりそのサーバー一つ一
つに国が設けられていてその中に州や県があつて・・・と現実世界
に非常に酷似している。

また職業も最初から商人として遊ぶとか武器屋・防具屋にして遊ぶ
等対人、体モンスターのみのVRMMORPGとはちよつと違つて
いる。(もちろんダンジョンに赴く剣士など戦闘職業もある)

もちろんNPCの武器屋、防具屋、露店などもある

閑話休題

まずは最初からLv25にしたキャラshingetu通称「月」

こいつが俺のメインキャラ

で隠れ蓑のakihathat通称「秋」Lv1

akihathatはもちろん自分の名字から取つた

shingetuというのは俺がよく使うIDネーム

このゲームのIDは漢字やひらがな・カタカナ対応(さすが日本企
業)だけどやっぱりshingetuがしっくりくる。うん

あれ?話がそれてるな

というわけでまず月でモンスター狩り。。。

どうせVRXシステムで思うように動かせるんだから初級ダンジ
ョンを飛ばしていきなり中級ダンジョンから

炎系魔法を一発起動できるようにして中級ダンジョン『氷晶の洞窟』へ

『氷晶の洞窟』というのは名前から想像できるように氷系の洞窟型ダンジョン推奨Lv15以上

地下へ進んで行くとモンスターが強くなるよくある洞窟ダンジョンだ。

中級といっても初級に毛が生えた程度なのでLv25にもなればたいたことはない。

「さて狩れるだけ狩るか」

オープン初日こんな所にはもちろん人っ子ひとりいない

まずはプレイヤーに最初に配られるIDカードでちゃんとLv25であることを確認する

名前：shingetu

Lv：25

HP：75

MP：100

PA：41

PD：36

SA：59

SD：40

経験値：33562455（後33546409でレベルアップ）

状態：健康

職業：魔法剣士+2

武器：クリスタルソード

防具

頭：魔法使いのハット

胴：魔法使いのローブ

腰：”

腕：なし

脚：ブーツ

Pは物理Aが攻撃Dが防御Sが特殊
その組み合わせでおおよそのステータスが決まるHPとMPの説
明はいらないよね？

経験値の計算は前の経験値かける2の仕組み

たとえば3Lvから4Lvに上がるには3の時点で8なのでもう8
つまり合計で16必要になる

それがどんどん増えると25Lvでは最低でも合計3355443

2 必要と馬鹿でかくなってしまう

説明はここまでにしておこう

なぜ武器だけあんなに強そうなのかということにかく殺される前に
殺すスタイルだったから武器にはっか力が入って防具は初期装備と
いうわけ。情けないことに防具まで手が回らなかったのだ
そんなこんなで初洞窟へ

下へ行く階段前で早速モンスターに遭遇。エンカウント

一発起動の炎初級魔法「ファイヤーショット」を3発で焼けてくれた
もちろん素材は剥ぎ取り

あいては雑魚モンスターなので対して上級じゃない素材でしたが…
そんなのを続けた

（秋葉月25歳）

そんなことを3年ほどやっていたらどうか

shinngetuは

LV:100

HP:99999

MP:99999

PA:99999

PD:99999

SA:99999

SD:99999

経験値:1267650600228230000000000

00000（後0でレベルアップ）

職業:魔法剣士+10

状態:健康

スキル:???

武器:Darkness Spell Sword+10

防具

頭:闇黒龍のヘッドギア+10

胴:闇黒龍の特殊鎧(胴)+10

腰:闇黒龍の特殊鎧(腰)+10

腕:闇黒龍のグローブ+10

脚:闇黒龍のブーツ+10

つてな感じ

闇黒龍というのはこのゲームのラスボス(アップデートがなければ)

に当たるモンスター

通常ならLv70〜80で多人数PT組んでも厳しい（俺以外勝つた記録なし）といわれているモンスター。

ほかの人はLv60〜70ぐらいで足踏み中

そんな中ひとりLv100になってしまったものだから1人だけ最上級ダンジョンにいる

だれにも見つからないのでPKは仕掛けて繰る輩もいないし、
本当にいるの？なんていうチャットまで出てきている。

ちなみに闇黒龍シリーズの防具は防衛をカンスト、武器（Darkness Spell Sword）は攻撃をカンストしてくれる武器。ただし100Lv以外装着不可能という致命的な欠点がある。

「もう行き止まり暇になったのでakihadukiの育成するか
」

そんなときに運営から非公式メールが来た
なんだろう？

まさかバレたか？

#2 テストく神shingetu降臨まで(後書き)

かなりはしょった希ガス・・・

気のせいです

この後shingetuのバックアップをもとにakihaduk
iの育成をするかと…

#3 部長誕生(前書き)

やっと回想が終わるかな？

#3 部長誕生

2006年4月15日

「いつもプレイありがとうございます」

運営の(株)バーチャルリアリティです

このたびはLv100達成おめでとございます

つきましては4/20日までに一度(株)バーチャルリアリティまでお越しく下さい

素敵なプレゼントを差し上げます」

よし行こうか。

バーチャルリアリティも本社をここ『第2の世界』に置いているからすぐ行けるだろう

(株)バーチャルリアリティ

「ここかあ何くれるんだろーなー?」

と思って受付に入るとすぐに応接室に通してくれた

3分ほど待つとなんと社長兼研究員の玉本 仮想氏が来てくれた

「このたびはLv100達成おめでとございます」

素直にお礼を言うべきであろう

「ありがとうございます」

「君へのプレゼントの件なのだがね」

早速来たなワクワク

「是非ともこの『第2の世界』の管理部門の部長になってほしいのだ」

えっ?

「私がですか?」

提案した内容が簡単に開始されてしまっているー！

やっぱりもうそれなりにでかかったんだなこのゲーム

驚きを隠せなかったが今shingetuで動く気にもならないので
akahadukiでゲームを開始することにした

つとまあこんな感じで今部長になった

そうするとshingetuが動かせないのってことで1から育てたのがこれ

名前：akahaduki

Lv:45

HP:12378

MP:35489

PA:21765

PD:20965

SA:35647

SD:28975

経験値:35184372088832(後3518437208
8832でレベルアップ)

状態:健康

職業:魔法剣士+4

武器:ハイエンドクリスタルソード

防具

頭:ハイエンドクリスタルヘッド

胴:ハイエンドクリスタルアーマー(胴)

腰:ハイエンドクリスタルアーマー(腰)

腕:ハイエンドクリスタルハンド

脚:ハイエンドクリスタルレッグ

(クリスタルセット)

クリスタルとは魔法を通しやすくロスの少ない魔法と使う者にとつては装備しやすい素材

中級〜上級まで十分に使える

ハイエンドクリスタルとはクリスタル装備の最上級品。錬成のスキル&レベルともに高くないと防具武器屋でも扱えない

防御と攻撃の高さが異常なのは装備のおかげ（shingetuのお下がりだが）というしかない

さてこいつの育成のためまあ集会所でも行くかー

#3 部長誕生（後書き）

次回からよつやく a k i h a d u k i で動き出します

秋がここまで成長したのは月のお陰なのはいうまでもあるまいな？

#4 秋の現状（前書き）

クラン>サークル>グループの順で大きい

グループが10人以下サークルが30人以下クランはそれ以上

第2位のクランが出て来ますよー

#4 秋の現状

いやあ以外とばれないもんだね

shingetuがLv100になる前からちよこ秋で集会場（酒場）に来ていたけど誰もshingetuとは疑わないみたいまあshingetuの装備は黒が基調なのに対して秋は白だしネームも全然違うしね
でもやっぱりハイエンドクリスタルセット装備のLv45なんてそうそういないから目立つわあ

さて今回は経験値稼ぎたいし適当なダンジョンに潜るか、と思っただけけれどただ潜るよりも依頼をこなした方が効率がいいと思うんだ

そんな訳で今俺は公式依頼掲示板に来ている

公式依頼っていうのは運営からのミッション（クエストとも言う）や公式な手続きを踏んで出される素材回収依頼が出ている

対義語に非公式依頼があつてこれは露店のおっさんから 売ってくれ（とつて来てくれ）なんて言うのがそれに当たる（たまたまにクランの仲間や親しいプレイヤーからも助けてくれてチャットで言われるのも広義では当てはまる）

公式の方が安全・安心できるし何より数が多い（回収するもの数も）。

とりあえずLv50相当のクエストをとつと

のぞこうしたら誰かに見つかった

「おーい」

だれ？

「おーいー」

ああ

現在勢力2位のクラン「スターナイトソード」ですねー

10分で仕度しなっ
てか

#4 秋の現状（後書き）

広場と言うのはダンジョンに行く前に必ず通るところで広場の奥にダンジョンへの転送装置があります

基本的に八千公前みたいな集合場所です

隊長さん（スラツシエルさん）（ ）は真面目ない人＋トツプレベルの剣士でもあります

#5 スターナイトソード（前書き）

まだ出でこないバトルシーンと雷神w

もつと展開を早くできるようにしたいなあ

魔法の属性付加について

魔法には火、風、雷、土、水の基本5系統と無系統の6つが有りま
す。

そして火系統は火と爆発に、風系統は風と飛行に、雷系統は雷と光
に、土系統は土と自然（植物含む）に、水系統は水と氷にそれぞれ
分かれ分かれ計11系統になります。

基本5系統は火、風、雷、土、水では左側が右側に対して有利で水
は火に有利です

他に有利不利はありません。

無系統は全ての魔法に対して有利不利は有りません（一部を除く）

また治療などの魔法は全系統で行えますが、多少差があるみたいで
す

#5 スターナイトソード

「20:30:05かギリギリ(でアウト)だな」
うわきつびしーたった5秒の遅れで!?

それ信号待ちしてただけだから信号のつながが悪かったただけだから
!(ないけど)

俺と隊長さんだけかと思っていたらスターナイトソードSNSのみなさん(見たところ
10人ほど)も一緒なんですな

ちらつと見てみるとみなさん60〜70Lvですなー
だから俺45Lvだってば(泣

「うんじゃ全員そろったことだしそろそろ行きますかー」
何の躊躇いも無く転送装置に突っ込んでいく隊長さん

まじでLv45ノオレガライジンタオシニクンデスカ?
あーあーあー皆いちゃったよお

うわーん(転送装置に飛び込み)

一瞬視界が歪んだ後目の前にはおっかない山とそこに続く道が見える
草原に立っているワタクシ

ここに来たのはいつ以来だろうか?

うーん月が60Lvぐらいの時だったなあ?

あの時は誰もいなかったけど今は結構賑わっているみたい。

それにしてもクランが多いような・・・?まさか、ね?

気にしたら負けだと思って目を逸らすことにする俺。

「それじゃあ今回の討伐目的雷神ライジンがいるあの山へ行くとしますか」
何でそんなに呑気なの〜!

って考えてみりゃ俺がただ単にLv低いだけか(何回言ってるんだ
ろっ)

なんてことを考えている内にズンズンと進んで行く隊長以下12人
(SNSメンバーの参加者総数)と最後尾に続く俺

結構皆さんいい装備つすねえ〜鉱物系も動物系もいいもの持ってい
らっしゃるようでさすがって感じ？

雑魚モンスターの電気系モンスターがいくつか出て来たのをバツサ
リ斬り捨てる時点で実力も結構ありそう何ですけどー

雑魚と言っても40〜50Lvだし

俺とLvは変んねえし・・・

やっぱりなんか怖いわ〜Lvが

なんてことを考えつつ途中参戦しつつ進んで行ったら気が付くと雷
神がいるステージの一つ前にいたりする

あれえ？やっぱりクラン多いなあ？

まさか？！

#5 スターナイトソード（後書き）

武器防具には鉱物系と動物系があります

モンスターから剥ぎ取って作ると動物系

ハイエンドクリスタルとか
鉱物はそのまんま鉱物系です

鉱物系は基礎防御攻撃が高めですが属性付加しずらいです

動物系はこの真逆ですので剣士は鉱物系が多い設定です

また魔法士は動物系が多い傾向にあります

#6 イベントモンスター（前書き）

多少話が進めばいいかと

#6 イベントモンスター

騙されたー！ー！ー！

やっぱりそうだったか！それは10分前に遡る

どうもクランの数だけでなく人も多い

クランだけでも3位の Magic Union（職業：魔法主体SNSと同盟有り）とか4位の time shinobi（職業：忍者主体のクラン）とか。

5位の………あれは……デストロイヤー日本支部？

このクランは理由無きPKが^{プレイヤーキル}多くて運営でも問題になっているクラン特に職業に拘らず質より量で相手をリンチの様に攻撃すると言う手法で5位を保っている

「隊長さんまさかとは思いますがど嵌めましたね？」

「ばれちゃったかあ。そうなんだよね〜今日此処でイベントあるんだよね」

「退路も塞がれたしヨロシクね」

「ためえ つけるようなキャラじゃねえだろ隊長！」

ーイベントとは週一で何処かのある時間に出る超強力モンスターの討伐のこと此処ではいくらPKしてもお咎めは無いー

他のメンバーも同じように「キラッ」とかやりやがって

そうこうしている内に真ん中に閃光が走った次の瞬間神雷神がそこにいた今回のイベントモンスター様だ

そんなにアクティブじゃなかったクランが次々に攻撃を開始する。

「うわお」

真横を弾丸とクナイと手裏剣と基本5系統のショットが飛んで行った

「・・・」

「端っここで観戦してt」

「突っ込めって」

え？ちよつと！危つくさつきと同じようなもんに当たるところだった危ない危ない

「ーじゃなくて！押すの止めて！赤信号渡ってる途中にトラックに突っ込まれるより怖い！実際そんなことになったことは無いけど！」
流れ弾だけでもかなり危ない何せ皆60Lvぐらいはあつたりするから

「流れ弾回避し辛いから一旦端へ避難してもー」

幸いフィールドは広いので端っこならー

「って角の方（も）地面が火吹いてるよ！じゃなくてそこも危険だつて」ー端っこすら危険地帯

仕方ない殺るか

「チツ」舌打ちを一つした後一気に5系統のショット×36計180発分を詠唱する前方180°に対して1°刻みで1発つつ指向性を持たせて一気に魔力をつぎ込む

「フグツ」「どこから!？」

悲鳴をあげる敵プレイヤー180発70人程に全弾命中内30人程の運の悪かったプレイヤーが倒れた

この人数といいLvの多様性といい何かがおかしい

「隊長少し下がらしてください」

返事を聞かずに下がり多機能端末を開く

公式通知用掲示板 イベント 今週のイベント

・・・ふむこのイベントで雷神を倒した時に生き残っていたプレイヤー全員に伝説級の武器がもらえるんだそうなしかも自由な形で（剣とか銃と言う意味で）。

だったら張り切るわな。

それでいつもなら参戦しないような低Lvプレイヤーまで来てるのか。倒れることへの恐怖がないのか？

#6 イベントモンスター（後書き）

これは3〜4回くらいで収めたい

先は執筆中.....

Now being written.....

#7 あくまでも戦闘中(前書き)

停滞中

なんかもっさり。。。。

「少し落ち着いてから。今行くと1体2どころか1体3にも4にも
もしかすると更に多くなるかもしれないから」

1人だったら突っ込んでたなんて思っている例の8点セット)
クナイ、手裏剣、銃弾、基本5系統ショット)が

またかよ！好きだな！そのセット！

ヒョイツと躲した地点でまた8点セット

危ないって！本当に！

コレも躲すと次は来なかった

出来るだけ攻撃は躲す出来なければ剣で弾く

そうして流れ弾を回避して生き残る作戦で相手らの出方を見ている
と次第に戦火が弱まって来た

そろそろLvが低いのからMP切れや体力(スタミナの方)切れが
出て来たみたい

それでも60Lvとか70Lvはまだまだイケイケっぽいけど。。。

・・・

「なんか・・・すげー膠着状態じゃね？」

かれこれ10分程ほとんど飛び道具も飛んで無いし接近戦も無い。

神雷神なんて放置されている(神雷神は暴れているけど)

「・・・チャンス？」

「かもね？」

返しまで疑問系。

「だったら」

風系統遅延発動魔法を剣に掛けて近めの集団に向かって横回転を掛け
て地面を這うように投げる

びっくりする集団。

真ん中で起きる竜巻。

「ふわあああああああ！」「」

軽い悲鳴をあげている集団に向って一気に走る

スライディングして真ん中まで一気に入り剣を取り手近なヤツから斬って行く

「うぐつ！」「なんだこいつ！？」「いつから此処に！？」

最初のが斬られた手近なヤツその後が（多分）仲間の悲鳴

慈悲深い（？）俺は仲間も一緒に動揺している隙に斬る。そのまま対応出来ずに一個中隊程の集団が全滅。
やっぱり8点セットが来たので離脱。

「お前は何をした？」と隊長

「えっと、まず剣に時限信管代わりに風系統の「トルネード竜巻強化版」を遅延発動で掛けて投げる。それが発動したのを見届けた後スライディングで剣をとって動揺している間に切刻みました」

「……！？」

「なんであの人数を1人で殺れるんだ？」

ああそれは月で鍛えた

つとコレはトップシークレット

「いや剣士職なら振れるか「うちのクランに来ないか？副リーダーの席を用意しよう」今は決められないっす。それと話に入って来ないよーに」

戦場でヘッドハンティングされた・・・

まあ秋ならいいかもしれないけど

「それは生きて帰ってからで」

さっきので目をつけられたらしい

銃弾が真横を通り抜け目の前で爆発が起きる。

一斉に回避行動に移るSNS

普通に早い

集団戦法でデストロイヤーが攻めてくる！

どうやら職業：兵士が多いようだ。

兵士の基本武器は銃器。

素早く大量に直線的な攻撃ができる。つまり射線に入らなければ安心。入ったら蜂の巣と言う単純な職業&武器。

しかしデストロイヤーは集団戦法を得意とする。それは横一直線に射線があることを意味する。

つまり逃げ場なんてありがたい物は無い。

知覚・身体強化がある俺はまだいいが純粹な剣士である隊長さん等などは剣で弾くのも結構辛い

そうなると必然的に射線を潰すしかない

此処からSNSの反撃が始まる

#7 あくまでも戦闘中（後書き）

後1話でこれ終わります

8 決戦？（前書き）

随分あっさりもっさりしています

そこから半径100mを範囲指定し雷系統魔法「落雷」ライトニングドロップを発動させる
これは指定範囲内に大量の落雷を隙間なく落として相手を攻撃する
魔法。動いている対象や大体の位置しか分かっていない対象には絶
大な効果があるのだが魔力消費が多いのが難点。
ただ半径100mなら俺にとって対した量にはならないだろう。

ライトニングドロップ
落雷が当たっていたところは見事に全て（狙撃手含み）真っ黒に焦
げていた

・・・やり過ぎたかな？

一応痛みとか疲労のフィードバック（実際には影響無し）があるか
らな・・・

でも仕掛けたのはあっち。そしてお咎めなし。気にしな―い
「怨むなら運営を―！（って俺運営に名を連ねてるのか）」

未だに続く機銃掃射。

それを必死によけて相手に近づく

右左右右上しゃがみ上左右左右左右上右右弾弾右上左斬
何しろ近づくのが大前提の剣士職。

近づかなければ話にならん

魔法でもいけなくは無いがこの弾幕に撃ち落とされるだろう。
それを力づくで押し切れるとは思えない。

デストロイヤー
敵本陣中心で暴れる12+1名

傍観中（对新雷神）の Magic Union と time shi
nobi。

神雷神はまだまだ元気であるがデストロイヤーの前線にいた401
V50Lvがほぼ全て制圧されつつある

そうすると指令の役割をしていた60Lvぐらいにヤツが数人（1

0人に満たない)出てくる。やはり職業：兵士ばかりと言うかだけしかもそこにいるデストロイヤーの敵は傷を負っているも弾幕の中を生き延びそして制圧したSNS(+1)。

そして兵士<剣士の接近戦。10人以下<12+1。デストロイヤーの平均Lv<SNSの平均Lv。勝てる要素のないデストロイヤー。そして勝利か勝利か死以外離脱不可のフィールド。

音もなく対デストロイヤーが終わった瞬間だった。

忘れかけてた神雷神は残りHP1/10程。ありがとうtime shinobi達。

何時の間にかtime shinobiとMagic Unionは不可侵条約を結んでおりそこで争いは起きていない。

そのため元々同盟のSNSが集まると残りHPが1/10程度の神雷神を倒すのに10分と掛からなかった。

全員が思い思いの伝説級武器を手に入れたところで帰還用転送装置が現れ無事に帰還し、後で正式にいろいろあるらしく酒場の会場1つを貸切予約していた。すぐに宴会直行だな……。おれも呼ばれてるけど行くべきかなあ？

8 決戦？（後書き）

友人から頼まれてコメディ短編を書くかも。
全く本編と関係なかったですね。

#9 宴会場（前書き）

宴会になった模様です

#9 宴会場

無理やり連れて来られる羽目になりました
やっぱり20分戻ってね

（戦闘終了後帰還直後）

「……と言っわけでtime shinobiさんと俺らの同盟で打ち上げを集会所併設の酒場の宴会場予約してあるからお前も来いよな！」

すっげー筋肉タイプのガルドさん（ ）に背中をバンバン叩かれながら言われた。うう・痛い痛いよ。

「それ、俺はどこにも属してないので辞退させていただこうかと来るよね？」今行かないって言ったばっかだったからね！？それと割り込みやめてもらえますかね！隊長さん！」

「連れねえじゃなかよ！んなこたあ言わずに来いって！」

「あーもー行く気しないですって！大体僕部外者じゃ無いですか。」

「そーゆうことはいいから。何なら今回は奢っちゃうよ？」

「金銭的には大丈夫です！」

「じゃあ奢ってもらっやっぱり厳しいかも」どっちなのよ！」

「ほら時間時間」

上から俺、ガルド、俺、隊長、俺、ナツキ、隊長の順である。

そんなこんなでギヤーギヤーしてるといつの間やらわらわらと囲まれて連れて行かれた。

結構策士だなこの野郎共。

それ見事に祭り上げるように宴会場に連れて行かれたわけです。
んで持って防具も外さず宴会場にいる俺。

周りも同じような格好だけだ。

やっぱり言われたんだよね

「うちにはいませんか？」

MU (Magic Union) にまで言われた。

そりゃそうだ。

何しろ遅延魔法を剣に掛けたりするような奴って見られてると思うからな

あの瞬間（剣に魔法を掛けて投げた）も見ていただろうし、あんな使い方すんのは俺だけだろうって言う自負がある。それ程までに珍しいってこと。

そもそもこのゲーム魔法剣士が少ない。

理由は至って簡単。「中途半端だから」

そう、真っ向勝負をすると魔法では魔法士に負ける、剣技では剣士に負ける。ほら中途半端でしょ？

でも実は遠距離は魔法近距離は剣技の使い分けができるし、今回の様なアイデア次第ではどちらにも勝るようなめんどくさい職業なのだ。

中途半端で面倒臭くて使い辛い。好んで選びはしないだろうが100Lvまで行くと少なくとも剣士・魔法士の100Lvよりは強い。たぶん。

「いやえつとそのなんていいいますかえつとその……」

言い訳ってこういう時に限って出来ないんだなあ

素直に「アレ（月）がいるから無理とは言えないし。それを隠す為のこいつだし。」

「あ〜今決め切らないので保留にしましてまた後日じゃ駄目ですか？」

「それで構わない。いい返事を期待しているよ」
だから隊長あんなに は似合わないってば！

それから飲んだ。食った現実世界にかんけーねーとか言っ
て飲んだ。確かに二日酔いはないし酔った気分にもなれるけどロウ
アウト忘れるよ皆…

#9 宴会場（後書き）

この後ようやく月が出てきますよ？

#10 入会

宴会があつた次の日

バーチャルリアリティ社社長室にて

「・・・と言うわけなのですが入っておくべきでしょうか？秋の方で「確かに理由もなく上位クランからのお誘いを断るのはまずいがなあ。以下にも怪しいし・・・」

「そうなんですが任務のほうに支障が出てもなどと考えると入るのは厳しいものになるかと思われませう」

「だよなあ」

「・・・どうするのこれ？」

「よし君にもう一個プレゼント。取説読んで必ず装備しておくように」

「こんなもの開発してたんですか・・・」

後日

SNS集合事務所

カランカラン。どっちかかっていうと喫茶店か。

「たいちよー」

「おや？aki haduki君か。で返事は？」

「入会することになりました。なので手続きのほうをガラガラガツシャーン」

「何やってんの？」

見事に机ごとひっくり変えて周囲が大惨事になっている。擬音語にしやすいような音出てるし

「いやあ てつきり断られるんじゃないかとかもしかしたらMUのほうに流れちゃうんじゃないかとか考えてたからさあ」

まあ結構悩みましたけどね。結局はいるけど

「というわけでこれからよろしく願います」

と言いつつ周りを見渡すと皆60Lvには達している

この場で一番低いのも60Lv。びったりくそつ明らかに一人Lv低い。

「はい、書類に不備なし。書類審査通過。無事入会完了。おめでと

ー」

ちやらーん

「クラン専用チャットチャンネルが解放されました」

無事にシステムでも完了したらしい。なので俺は

「それと今日はこの後用事がありますので僕はこれで。」

カランカラン

に得たかったのもあるが今日は人が少ないところでアレを試さなきゃいけないんでね

沈黙の森1F

さてあまりにもよくわからないダンジョンで有名な沈黙の森にやっ
てまいりましたー。F1と言う簡単な筈の階にも関わらず誰も居ま
せんー。ぱちぱちー

では機能もらったクイックプレイヤーチェンジシステムを使ってみ
たいと思いまーす。

これは登録してあるプレイヤーに一瞬で変わる代物。昨日貰った
アレ

今ログインしているのをロウアウトさせ登録プレイヤーでログイン
っていうの一瞬でやるっていうこと

じゃあ起動させまーす。

カアッ

っ！目が痛い！ぐらいの光！

シューウ

おおー！変ってる！月に変わってるよう！

久々に月でログインしたので町に行って買いだしてもすっか

ってそんな事をしたら大問題なのでとりあえず月・秋共同宅へ帰還。

そしてもう一度あの装置を使って秋に戻る。

おおおー！便利ー！

スバラシー！ニホンノギジュツリヨクデスネー。

さて使用チェックも終わったし買い物兼ぶらぶら散歩にでも行きま
すか。

まずは、NPC商店でHP・MP回復用ポーションを大量購入。

次にNPC武器屋でメイン武器の切れ味を上げる。刃こぼれ結構し
てたから意外と高くついた。この後喫茶店でゆっくりする金が一
泣)

うつつ。

しょうがないのでぶらぶらしているとズパアアアアという綺麗に
響く発射音が郊外から小さく聞こえている。自衛隊のVR訓練日か。
リアルだからできるVR訓練by自衛隊。

弾薬の消費が現実ではなく安全に訓練できるんでんで自衛隊などの
各国軍隊等治安部隊で訓練に使っているのだ。

それはよいとして
閑話休題

いや〜平和だなあ〜。さてプレイヤー商店街でも通って帰るとしま
すか ログアウト

#11 商店街（フィールド）

プレイヤー商店街にやってまいりましたー。
ばちばちー

やっぱりNPC商店より物が良いけど値段もいいなあ。ハイエンドクリスタルソードの修理で全額で支払った俺にそんなの買えるわけがないじゃん？

うーん特に欲しい物はないけどハイエンドクリスタルの原石（大）とか結構綺麗だしー。欲しい。ピンポーが悪いんだー！

シュトト。ズダダ。

おっと危ねえ。俺今ハイエンドクリスタル（大）見てただけよ？

クナイ、手裏剣に5.56 x 45 mm NATO弾つと。戦闘ですな分かります。此処でつて事は喧嘩ですな分かります。じゃあ止めなきゃですね。ついでに証拠回収しておきますね。

押しちようどいいから月で……

ピカアア

ふう変更成功！

じゃあ飛び込みますかー

それよっこいしょ。

取り敢えず最前線にいる2人の手を持ってそれぞれ別の方向に投げ飛ばす。

「うお!？」

「!？」

着地はちゃんと出来たみたいだね。

取り敢えず身分は明かさな運言であることい。だ戦闘に参加したいって面白くなるから。

片方はおよそ5人程の職業：忍者。

もう一方は10〜15人の職業：兵士。

あれこんなにもあった様な……まいつか。

今頃逃てももう遅い。今から落下して地面に衝突するまでの時間で逃げ切れる距離は射程距離内だっつーの。

ズドドドドドドドドドドドド。

地震だったら震度7レベルの地響きと揺れ。

そして目を瞑ってても目が痛い位の光（を発して落ちてきた電撃矢）
。5分後光、地震、地響きが収まるとそこはまさに焦土という表現がピッタリなぐらいに焦土だった。生存者は勿論俺一名。

「戦闘行為は戦闘可能区域でやりましょーねー。じゃないと今回みたいにもたまたま死亡しますよー。」

周りにさらさらと消えていく（ゲームの仕様で死亡した者は自宅などでペナルティを受けて再開するため死亡したものは粒子が散ったようなエフェクトになる。結構綺麗）死体を見つつなんとなく叫んでみる俺。

まあ意味はないんだけどね。

「久々の戦闘で楽しかったしそろそろ家に帰るか」
ログアウト
誰もいない商店街を抜け帰った。

12 事後通達してみました

「しゃちよーから絞られましたー。
ううう喧嘩止めてやったのにー！
さていつも道理20分程遡ろうか。」

「お前何やってんの？アレはやり過ぎでしょ。」

いきなりメールで呼び出されてバーチャル本社（ゲーム内）の社長室で社長に言われた一言。開口一番これ。

「すみません。調子乗って光の流星群まで使いました。というかそれだけで殲滅しました。」

「……」

「……」

「……相手が可哀想だぞ……。」

この社長の前でも光の流星群を演じたことがあるので社長もその恐ろしさを知っている。

「最近秋で頭使ってちまちまやってたのでたまにはスカーッと魔法撃ちたいなー、なんて思いました……。」

ヤベエ社長の眼が怖え。

「その……何て言うかすみません。」

「はあ、今回は不問ってことにして処理するから、次からは連絡ぐらいいれてからにしてくれ。」

「すみません」

「喧嘩の仲裁にしてはやりすぎたと思って居ますが焰ではなくて良かったでしょ？」

「それをやったら大変なことになっていたでしょうが」

……

そういう風に絞られて最後は最近のパトロール状況報告で終わったわけですがもうちょっと月でMPを派手に使いたい！

SNSに行って隊長と手合わせしてもらおうか？

いやいやこの暗黒龍スタイルで押しかけたら恐怖でしかないって。うん。

やめておこう

しょうがないので秋に戻って

ピカア

眩しいなあ。

ではSNS本部に行ってみります。

#12 事後通達してみました(後書き)

ストックピンチなので次回以降もしかしたら更新が遅くなります

13 戦争の兆候

土曜日 pm 6 : 00

カランカラン

「遊びにきま

」

酒臭っ！

「 したが大事なようがあった気がするような夢を見た気がする
るので失礼しま ふうふう?! 」

「つれねーじゃねーかよお」

ダメだもう完全に出来上がってる。

ガルド、出来上がってる。

その勢いで酒瓶投げるな！それダメージでかいですから！

「みなさーんこの人が本日入ったこの最終兵器 a k i h a さん
通称秋さんです」

あれ？隊長、紹介を頼んだ覚えはないんですが？ついでに最終兵器
って何？聞いてないよ？

「アンタが最終兵器ねえ」

ナツキさんあなたも出来上がってますね。

「はあ…で何やってんですか？」

「うん？秋入会記念宴会。」

「もしかしなくても俺主役？」

「同縦に首を振っている。」

「此処に来たのは気まぐれなんだけど…。もし来なかったらどうし
ていたの？」

「そしたらただの飲み会。」

飲みたいだけなんですな。

「主役おまけ？」

「yes」

「・・・」

「・・・」

「コッって吹き飛ばしても怒られないよね？」

「アトミック火系統爆破魔法核爆発！」

「っ！それはやめろ！流石にここが持たない！」

「ジョークですよ。パーティーじょくですつて。アトミック（笑）」

笑いが止まらない。勿論始めから火系統爆破魔法核爆発なんてやる気がない。そもそも秋の魔力で足りるかどうかもわからない様な最上級火系統爆発系魔法をこんな所でぶつ放す程バカじゃない。まあそれでも実力が測り切れない俺だと本気だとやりかねないと思ったのだろう。必至で止める隊長が面白すぎる。

「はっはっは。いや、皆さん酔いは覚めましたか？でもこれやると俺自身もやばいんでやらないつすよ。」

「フヒヒヒサーセン。余りにも扱いがひどいと思ったもんで。」

隊長が手招きしてるので外の出ることにした。

「ところでさっきの最終兵器ってどう言う意味ですか？」

「今度敵対クランであるデストロイヤーとのクラン戦があるんだ。是非ともそこから参加して欲しくてね」

なるほど。あそこは運営でも問題となっているのだがそれは運営だけではなかったということか。

早急に手を打たねば。

「とりあえず参加に置いてください。」

「うん。りょかい。日程などはまた今度で」

一応報告対象だな。

「さて酒買って戻りますか。」

「そっだね。手ぶらはまずい気がするよ」

#14 事前訪問した結果がこれだよ！

「そうか我々の対策より先にクラン戦が有ったか。」

「ええ。それもかなりの規模で、ですね。何しろあの要塞& amp; ; 森林フィールドを指定してますから。」

要塞& amp; ; 森林フィールド。それはゲームの使われているゲームエンジンとメモリをフルに使い切るとどうなるの？と言う単純明快且つ短絡的な発想によって作られた文字通り対戦用最大規模マップで有る。

幾つかの要塞とそれらを繋ぐ一本道とその他の森によって構成されている。完全に力比べ用？

行った事が無いので詳しくは分からないが要塞が確保されると（出来ると）地下に要塞と要塞を繋ぐ裏道が自動的に作られるらしい。面積は・・・何かもう良くわかんない。数字がデカ過ぎ。

「で、参加するの？」

「一応SNSさんから招待を受けまして参加の意向を伝えたのですが改めて聞くとどうも秋じゃ戦力^{火力}不足の様です。どうしようかと言ったところですね。」

「そうすると秋じゃ無くて月でという事に？」

「そうすると今度は第3勢力になってしまいますので・・・」

「うぁーもうどうすんだってーの!」

^{社長}初老の男性がこの有様である。(よく言えば)パワフルだなあ。

「だから困ってここに来ただけど!」

「はあもう知らん。あれじゃね?あのー、秋で参加しといてヤバくなったらクイツクチェンジでピカーンみたいな?」

フランク!このおっさんメツチャフランク!そして適当!どうでもいいんか!

「なんで疑問系なのは聞きませんが。まあそれでいいや。面倒臭いし。」

「はいじゃあ解散!早くモンスターハターの最新作やりたいから!じゃーねー。」

ーピロリン

プレイヤー:社長が退室& a m p・ログアウトしました

「本当なんなんだよー!」

虚しく反響する俺の声しか残らなかった。

#15 クラン戦準備期間(前書き)

異様に短いので注意してください。

また読まなくても何ら影響が無い様な話です

15 クラン戦準備期間

あのクラン戦には参加（絶対）しなければならぬのだが月のおかげで資材・資金・回復薬その他諸々かなり大量に自宅（第2の世界内）に大量に置いてあつたりする。

そのため準備その他がいらないのでSNSのクラン集会用喫茶店（？）に入り浸っていた。

「みんな忙しそうだねえ」

「そりゃそうでしょ。クラン始まって以来の大勝負なんだからね。」

そうだったね。

「で、いつクラン戦やるんですか？」

「2週間後に要塞&森林マップでやることになっている。またこの話に連合としてMUさんとT i m e s h i n o b iさんからSNS側で戦闘に参加してもらえることになっているが、偵察部隊およびその他情報網によると相手も相当の増援を呼んで準備してるみたいだからね。」

「ちょっとしたお祭り状態ってことですか？」

「それ以上だろうね。このゲーム始まって以来の戦闘、いや戦争だね。」

結構大事じゃねーか

「そうですね。その中心にいる気持ちは？」

「ちよつとデカくなり過ぎたかもね（笑）」

さてと本部に情報収集運言しに行きますかね。

「じゃあ準備があるんで俺もこれで」

「ああ。じゃあ次はクラン戦一週間前からのブリーフィングで」

「よろしくお願いします。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6294w/>

第2の世界 ~ The Second World ~

2011年11月23日23時46分発行